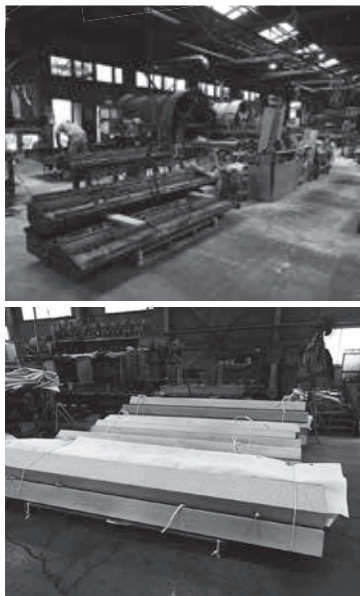




関東コンクリート工業株式会社行田工場

当たり前前の日常を支える階段を



深夜、駅舎のコンクリート階段をミリ単位で迅速に据え付け、翌朝には何事もなかったかのように大勢の乗客を迎え入れる階段を製造しているのが、昭和23(1948)年創業の関東コンクリート工業株式会社(代表取締役 野中 由紀子)の行田工場です。

同社は、主にコンクリート階段の製造を手掛け、その製品は東京駅、品川駅など日本屈指の乗降客数を誇るメガターミナルをはじめ、全国の鉄道駅や公共施設などで採用されています。特筆すべきは施工スピード。コンクリートを現場で流し込む一般的な工法と比べ、同社では工場完成品を組み立てるプレキャスト方式を確立し、工期を大幅に短縮しています。そのため、終電から始発までしか作業できない鉄道工事でも迅速な施工が可能。これまでに、ヒューム管、水柱柱と主力製品が変わる中、ステンレス製品の台頭とともに需要が減少しつつある中、自社の要でもある遠心力工法を活用した階段が得意な点と、考案されたのがL字型のプレキャスト階段です。国内唯一の遠心形成機で、コンクリートを流し込んだ型枠を高速回転させ、強い遠心力によって圧縮することで、余分な水分や気泡を除去し、水セメント比を低減。このプロセスにより、内部まで緻密な構造となり、

高い強度と耐久性を実現しています。毎日受ける多くの歩行負荷でも30年以上もの安全性を維持できる理由は、こうした製造技術にあります。

また、この隙間のない密度は審美性の鍵にもなります。内部に微細な気泡が残らないため、研磨を施すことで天然石そのものような滑らかな鏡面に仕上がります。御影石を骨材に用いて、職人が磨き上げた表面は、階段そのものが美観を引き立てる気品をまとい、東京ドームや東京スカイツリー、横浜アリーナなどのイベント広場でも採用される美しさです。

同時に安全性にも妥協を許しません。弱視の方のための視覚ラインは製造時に一体成形されており、段差の視認性を永続的に維持することがなく、段差の視認性を永続的に維持します。学校用向けには子どもがつまづかないよう、段鼻(踏み面の角)に丸みを持たせ、屋外用には表面に微細な凹凸を施して雨天時の防滑性と排水性を高めるなど、利用環境に応じた細やかな工夫も重ねています。

私たちが当たり前前だと思いがちな駅の階段。その一段一段は、行田の工場で丹念に作り上げられ、今日もどこかで人々の生活を支え続けています。

会社プロフィール

工場長 阿諏訪 貴宏

【事業内容】コンクリート二次製品製造、石工事など

【所在地】荒木 2144

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課(内線318)までお寄せください。

袖まくり男手杓のビールかな
若葉萌ゆ車窓に迫る磨崖仏
新しき門出を祝ふ桜かな
病室の窓は額縁若葉萌ゆ
春耕の老軀の悲鳴なりやまず
学生はロン背負ひて入学す
月朧母は六人子を育て

下忍 荒井 壬子
和田 小林 博矣
小針 酒井美智江
渡柳 大西 道子
持田 小倉 繁三
小見 川島 盾子
荒木 高澤よね子
(三沢一水選評)

俳行壇田

ぎょうだはいだん

俳句応募方法

一人3句以内。住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、はがきまたは封書で広報広聴課まで。
※毎月末日必着
なお、一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

朧夜や肩のふれ合ふ人とみて

【句評】何とも思わせぶりな一句である。月がぼんやりとみえる春の夜、作者は誰に寄り添っているのだろうか。つい詮索してみたくなる。「ゆるやかに着てひとと逢ふ螢の夜」という桂信子の句があるが、この大家の句を彷彿させる一句である。このような句は誰といたなと謎解きしないほうが余情が生まれる。心憎いほど上手い詠み方である。

落味噲や妻に持論の二つ三つ

【句評】作者は軽妙洒脱な俳句を得意としているが、掲句も本領発揮のいい句である。句の材料を使う家庭料理は妻の独壇場で、その蘊蓄を聞いてほかない。いや、たとえ自分に持論があったとしても余計な口を挟まない方が夫婦円満の秘訣なのかもしれない。作者はそのへんのさじ加減を心得ている粋人でもある。人生俳句の軽みを感じさせてくれる一句。

鯉のぼり昭和はみんな子沢山

【句評】大空に無数の鯉のぼりが舞う光景は今や郷愁となってしまった。少子化がこのまま推移すると将来、消滅都市が続出してしまふ。掲句はそんな社会に警鐘を鳴らす一句といえるだろう。現代社会は子供を育てるのにお金が掛かり過ぎたり、子育て相談がしにくい環境にあり、少子化に拍車がかかっている。いくら社会が進化しても救い限りである。

緑町 松林 真弓

門井町 宮田 淑尚

第24回大人のための朗読会

小説や絵本などの多様なジャンルの作品を皆さんにお届けする朗読会を開催します。
▶日時 7月12日(日)午後1時30分～3時50分(午後1時開場)
▶場所 中央公民館第1学習室
▶内容 ・「染井の桜」木内昇/著 平凡社
・「シンデレラ」佐野洋子/著 中央文庫 他

第72回青少年読書感想文全国コンクール課題図書の出し出しを一部制限します

夏休みは課題図書の利用が多くなります。より多くの方に利用していただくため、次の期間は課題図書の出出期間を制限します。
なお、小学校の部の課題図書は貸し出し用の他、館内閲覧用として特集コーナーに展示します。
▶期間 8月31日(月)まで
▶対象 第72回青少年読書感想文全国コンクール課題図書
▶貸出期間 原則1週間

令和8年度読み聞かせボランティア養成講座(高学年から中学生も楽しむ読み聞かせ)

▶日時 7月11日(土)・18日(土)午前10時～正午
▶場所 図書館ミーティングルーム
▶内容 小学校高学年～中学生向けの絵本を中心に、実践を取り入れながら読み聞かせを学ぶ。
▶講師 小野寺り子(おはなしボランティア指導者)
▶対象 次の全てに該当する方
・ボランティア活動を希望する方
・2日間の講座に参加可能な方
▶定員 10人程度(先着順)
▶申し込み 6月17日(水)～7月3日(金)に行田市電子申請・届出サービス、直接、電話のいずれかの方法により図書館

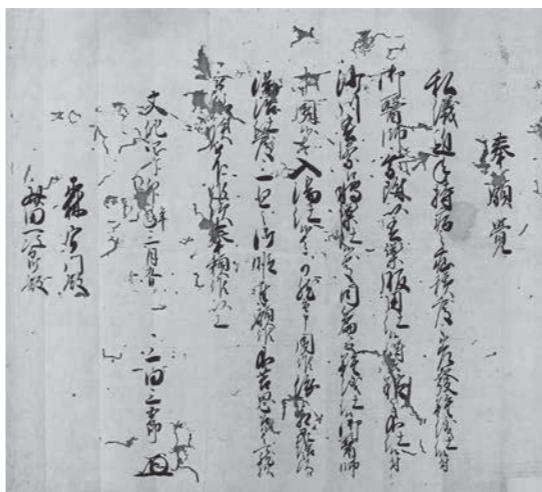


電子申請・届出サービス

行田歴史系 387

忍城下の老剣士、湯治へ参り候

「3週り、塔之沢へ湯治に行かせてほしい」
この一節は、忍藩主阿部家の家臣の剣術指南を務めていた三田三五郎が文化4(1807)年3月に忍藩へ提出した願書の一部を意識したものです。数え年で56歳、当時で言うところの老剣士であった三五郎の身にいったい何があつたのでしようか。



三田三五郎の湯治願い(当館蔵三田家文書)

なつたといひます。当初は藩医の乗附以春が処方した薬を服用するも効き目がなく、沙川春察の処方薬に変えても結果は同じであつたようです。
藩医が言うには、温泉に浸かるのが良いとのことなので、相模国塔之沢(現神奈川県足柄下郡箱根町)へ湯治に赴きたく、3週りのお暇を頂戴したい、と述べています。湯治は一般的に7日～1週りと考えられていたもので、3週りは21日間ということになります。

さらに、文化13(1816)年7月に忍藩は三五郎に対して碓氷関所(現群馬県安中市)を通行するための関所手形を発行しており、そこには三五郎が「上州草津へ湯治に赴く」ことを通関理由として明記しています。三五郎は草津へも湯治に行つたことを物語っています。
このように、老剣士・三田三五郎は関東各地の湯治場へたびたび赴き、持病を含めた心身のセルフメンテナンスに努めていたことが古文書から読み取ることが出来ます。
(郷土博物館 澤村悦童)